

2018年3月刊「小学入試情報2019」に掲載されました

「わが子を世界で通用する人間にしたい」 ご父母におすすめ

本気で取り組む英語教育・国際理解教育

西武学園文理小学校 をたずねて

グローバル社会で活躍できる 真の国際人を育てる

開校以来「英語のシャワーで世界のトップエリート育てる」を合言葉に独自の教育を行っている西武学園文理小学校。校舎は埼玉県南部狭山市にある。東京都内からの通学生も多く、本校までのアクセスとしては西武新宿線「新狭山駅」から徒歩10分の他に、川越駅など3つの駅からスクールバスも出ており、池袋からは46分、新宿からも57分で通える。もちろん、埼玉県内の主要都市からはもっと短時間で通学できる。この学校のスクールモットーは「心を育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」の3つ。今回はそのひとつ「国際性を育てる」の大きな柱、語学研修について話を伺った。

5年生はイギリスへの短期留学を体験

5年生の語学研修の行先はイギリス。その期間は2週間以上で、まさに短期留学と言える。事前の準備も入念に行われ、イギリスの文化や風習、大学の成り立ちなどについて事前学習として英語の講義を受ける。講師はオックスフォード大学出身のネイティブの先生だ。

現地では宿舎で他の国の留学生たちと生活をともにし、英語で交流をする。授業は英語のレベル別少人数クラスに分かれて行われ、優れた指導者の指導を受け、実力を高めていける。



▲5年生イギリス短期留学～ Eton College も訪問しました



▲5年生イギリス短期留学～短期留学中には Oxford 大学も訪問します

世界の皇室の子女が学ぶ名門イートン校、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学へも訪問、交流を行う。日本のほとんどの10歳、11歳は経験しないこの短期留学が、文理小学校の子どもたちの意識を世界に向けさせるだろうことは想像に難くない。実際に保護者からも英語の力がつくこと以上に、子どもの自覚、自立を促すきっかけになったことを喜ぶ声が多いという。

写真で見る語学研修



▲5年生イギリス短期留学
～世界各国のお友達と一緒に英語の勉強！



▲5年生イギリス短期留学～
～ウィンザー城にて衛兵の交代式を見学



▲5年生イギリス短期留学



△6年生アメリカ研修～現地校の児童生徒
に日本文化を英語で説明する



△6年生アメリカ研修～国連本部前にて



△6年生アメリカ研修～威厳と風格を備えた
ハーバード大学創立者 John Harvard 像にて

6年生のアメリカ研修は 文理小英語教育の集大成

6年生になるとボストン、ニューヨークでの語学研修が行われる。文理生は6年間で培った英語力を大いに発揮し、国際交流を行う。5年生のイギリス短期留学が英語や国際人としてのマナーなどを学ぶ旅だとすれば、6年生の研修は海外の人に英語を使って、日本を伝える場と言える。グループに分かれて、書道や折り紙、けん玉など日本文化を現地の小学生に英語で紹介するという課題に挑戦するのが最大のイベントだ。これは英語力のみならず日本のことをしっかりと勉強し理解していることが前提となる。このあたりに、世界で活躍するトップエリートの育成を掲げる文理小学校の根幹を見ることができる。

アメリカ研修ではハーバード大学、MIT（マサチューセッツ工科大学）で大学関係者との交流がプログラムに含まれている。これらの大学で活躍する文理生が誕生するのもそう遠い日ではないだろう。



△6年生アメリカ研修～ハーバード大学にて記念写真



△6年生アメリカ研修～マサチューセッツ工科大学前にて記念写真

Q&A

海外語学研修を通して子どもたちはどう成長していくのか。
西武学園文理小学校、教頭の高橋敏志先生にお話を伺いました。

Q①. 2週間以上の海外での宿泊というのは体力・精神面ともに大変だと思いますが、何かそれに向けて取り組んでいることはありますか。

本校では、1年次から夏季宿泊研修を実施し、保護者のもとを離れて自ら生活する習慣を身につけるプログラムが用意されています。また、3年次から始まる食卓作法教室や日光・北海道宿泊研修などを通して、ビュッフェスタイルの食事マナーや飛行機の搭乗方法、ホテルのユニットバスの使用方法等も事前に学習し、準備万端の状態です。5年次の英国短期留学を迎えます。このように長期にわたるカリキュラムの中で、海外において必要とされる事柄を自然に身につけるプログラムが用意されているため、子どもたちは特に苦労することなく海外研修を迎え、また充実させることができます。

Q②. 参加は任意ですか、全員ですか。任意の場合どのぐらいの児童が参加しますか。

学校行事として開催していますので、全員参加で実施しています。

Q③. 児童は帰国後どう変わりますか。

英語学習という視点からは、さらに英語学習への前向きな姿勢が生まれます。帰国後のアンケートなどからは「自分が伝えたいことをもっと適切に伝えたい」という思いがそのような姿勢を作り出していることが伺えます。

また、子どもたちの成長という視点からは、小学生の時に2週間以上親元を離れて生活することができたという自信が、様々な事柄において保護者の手を借りることなく自ら積極的に取り組む姿勢を生み出しているように見受けられます。

Q④. 2018年の日程はいつごろですか。

2018年度の海外研修は、英国短期留学が7月8日から16日間、米国研修が11月2日から8日間の実施を予定しています。

BUNRIS

西武学園文理小学校

〒350-1332 埼玉県狭山市下奥富600 tel 04-2900-1800
西武鉄道新宿線「新狭山駅」徒歩10分／スクールバスあり

平成31年度(新1年生)募集要綱 / 学校説明会・公開行事

平成31年度募集日程、学校及び入試説明会、授業体験、入試体験、CA活動体験(創造的活動:学年を超えて和太鼓、English、鉄道模型、Strategy、Game等)の日程は、2018年3月下旬頃に学校ホームページにて公開いたします。



ロボット プログラミング 講座

既に多く報道されているとおり、小学校でのプログラミング教育が2020年より必修化される。これにより、義務教育の早い段階からコンピュータがより習慣的に活用されることになるだろう。昨今、子ども向けのプログラミング教室による「出張授業」という形式で試験導入される事例が増えてきたが、民間企業に委託するのでは？と不安の声も挙がっている。指導者の確保、設備環境といった点も含めて試行錯誤の段階であるのが実情だ。そんな中、一貫校ならではの特性を活かしたユニークなプログラミング教育を実施している小学校がある。その取り組みは多くの関心を集め、ニュースや情報誌で取り上げられるなど注目されている。では、西武学園文理小学校のプログラミング教育を紹介しよう。

文理高校の理数科生が先生に 系列上級校と連動した取り組み



2018年1月に開かれたプログラミング講座のテーマは「ロボット」。参加した児童は同校の5年生と6年生合わせて30名。授業では、ブロックと電子部品を組み合わせ、好きな動物に見立

てたロボットを作り、これをタブレット端末で操作。手足の動作や発光する仕掛けなどを試行錯誤しながら形にし、少しずつ思い描いた表現に近づけていくというものだ。体験した児童は、「難しいイメージだったが、動きの仕組みや変化をつけられたのはとても面白かった」と話す。

今回、指導にあたったのが、系列高校の理数科生。以前より「英語プログラミング教育」など、一步進んだプログラミング教育に積極的に取り組んでいる。「指導する側に立つことで、理解の足りなさに気付かされた」と生徒は言う。彼らにとっても、これまで得た知識や技能をアウトプットする良い機会となったようだ。

小学生と高校生、ともに手応え十分だった、ロボット・プログラミング教室。教頭の永嶋稔久先生は「ロボットの手足が上手く動かないときに、どのようにプログラムを変えるか。手順を踏むと物事をうまく解決できるといった、論理的に考えていく力をプログラミング教育を通じて身に付けてもらいたい。」と話す。

西武学園文理小学校のプログラミング教育の発展に期待だ。

